

## 環境にやさしい製品作り

北京郵電大学

時間：2007年11月29日 11:00～12:00

場所：新日本石油精製株式会社 根岸製油所  
神奈川県横浜市磯子区鳳町 1-1

### 見学概要：

新日本石油根岸製油所に着くとすぐに担当者の方から概要説明があった。

新日本石油株式会社は日本最大の石油メーカーだ。根岸製油所では主に原油を加工・処理し、最終的な石油製品に仕上げている。「Every drop of crude is refined into products」を生産理念に掲げているが、それは原油を一滴残らず製品に変えるという意味だ。新日本石油はこうして石油資源を活かしきることによって生産量を増やし、汚染の抜本的解決にも取り組んでいる。なお、新日本石油は利益追求と同時に、人間、石油、自然の調和のとれた発展にも心がけている。

日本最大の石油会社として、国際市場における原油製品のニーズに対応するため、最近数本の生産ラインを増設し、安全かつ効果的に良質の製品がいつでも生産できるような体制になっている。また、根岸製油所の石油製品は市場動向をベースに生産されており、市場のニーズを常にキャッチし、高品質な製品を市場の隅々まで届けられるようになっている。

生産活動のこうした取り組みのほかに、新日本石油は環境保全および事故発生時の緊急措置の実施にも努めている。環境保全に関しては、環境計画の作成—計画の改善—実施—検査—修正というシステムがすでにできあがっており、持続的な環境保全が確保されていた。生産段階から産業廃棄物の排出を抑制することで、水質や大気への影響を低減すると同時に、高品質な製品を作ることによって製品の消費過程における汚染を軽減することにも力を入れているが、新日本石油の社会的責任に対する認識が垣間見られた。

概要説明の後、バスに乗って製油所内を見学した。製油所は緑化がよくなされ、静かだった。港に停泊している石油タンカーの周りに柵が敷かれていたが、これは事故時の石油の漏れを防ぐためのものである。

(P S 1) (P S 2)

(P B 3)

### Q&A

見学をしているうちに、新日本石油の新しい生産方式と経営理念についての理解が徐々に深まってきたが、不明な点や疑問もいくつかあったので質問したところ、以下のような回答があった。

#### **原油はどのように全て製品化されているのか？**

原油は常圧蒸留塔で各成分の沸点の違いを利用して分溜される。そのうちのガソリンやディーゼル油はそのまま製品になるものもあるが、その一部はオクタン価を上げるための改質などの工程が必要になる。また、常圧蒸留塔で最後まで残った部分は残渣と呼ばれ、それをさらにクラッキングして改質し、他の精製油に混ぜて各種精製油の品質を高めている。市場に合った製品を製造するために、新日本石油では毎年市場の動向に基づいて石油製品の生産計画を調整している。

(P S 4)

#### **環境保全と品質向上を図るためのコストはどのように回収されているのか？**

これらの取り組みによって生産コストは若干引き上げられるが、製品の付加価値も同時に上がるので、かけたコストに見合った収益が得られている。環境面では、環境対策によって生産活動がよりスムーズになったほか、当社の経営理念としての企業の社会的責任も果たすことができている。また、資源をリサイクル利用するためのシステムもしっかり構築されているので、環境への負荷が低減されている。

(P S 5)

#### **感想**

わずか 2 時間の見学で新日本石油の生産と経営のすべてについて理解することは不可能だが、考えさせられることがいくつかあった。

一番印象に残ったのは日本企業の社会的責任に対する認識だ。日本最大の石油企業として、新日本石油は社会的責任をその生産目標の中に盛り込み、様々な環境対策を講じることで社会の信頼に応えようとしていた。具体的には、製油所内の緑化から廃水処理、廃棄物の再利用にいたるまで、できる限り環境にマイナス影響を与えないような取り組みが行われていたが、これはまさに社会や国に対する責任感の表れだと思う。

また、日本についての単純な印象と言えば、やはり街の清潔さときれいな空気ということになるが、日本にも多くの大手企業や大きな工場があるのに、なぜ環境がこれほどまでに美しく保たれているのか……。それはおそらく利益を追求するばかりでなく、社会貢献もしなければならないという責任感が企業にあるからだろうと思う。

中国は今、経済の高度成長の真っ只中にあり、一部企業の利益一辺倒の事業運営により、中国の環境負荷が急激に悪化し、今後の持続的な発展に支障をきたすほどになっている。中国はこの点を反省しなければならないと思う。日本も経済成長の初期には、今の中国のようにいろいろな問題があったが、日本人は今ではそれらを良い教訓にしている。中国の企業や工場も隣国の日本を手本にし、この問題を真剣に受け止める必要があるように思う。そうすることによって、中国も先進的な工業と環境の調和のとれた発展を遂げることができるようになるのだと思う。